

SDGs宣言書

私たちは、持続可能なまちづくりに向けて、次のとおり取り組むことを宣言します。

（宣言日・変更日） 2020年 11月 11日

事業所・団体等又は関連事業者等としての2030年の（又は中長期的な）あるべき姿		
農業高校での学びを活かした『農業が持つ科学性』『農業の知識・技術』『食の奥深さ』『命の大切さ』『農業が育む文化』の5つをテーマとしたオリジナル教材の作製と教育関連施設でのワークショップを展開し、農業への興味関心を高める教育活動を実践するとともに、持続可能な地域社会の発展に寄与する。		
事業所・団体等又は関連事業者等としてのねらい、特徴的な活動		
1. 農業高校での学びを活かしたオリジナルの「いきもの教材」の作製 2. オリジナルの「いきもの教材」を活用した教育関連施設でのワークショップの開催 3. 農業を通じた教育活動実践による「SDGsAction!」を意識した地域社会発展への寄与		
目標に関連する取組内容		
ゴール	これまでの取組	来年度までの取組目標
	雑穀「たかきび」を栽培し活用していく中で、発展途上国等への学校給食支援の取り組みを実践していく。	雑穀「たかきび」の収穫量3Kgを目指すとともに、学校給食支援となるメニューや調理法を研究・開発する。
	「持続可能な農業の推進」への一助として、農業の学びを活かした知識・技術の教育活動に取り組む。	いきもの教材の作製と、それら教材を活用した教育関連施設でのワークショップを年間10回以上開催する。
	我が国の農耕文化や世界・日本農業遺産を守り、伝承するための活動を実践していく。	農耕文化を題材とした教材づくりと、世界・日本農業遺産であるワサビ田における生物調査を継続する。
	穀類「六条大麦」を栽培し活用していく中で、麦ストローの作製と自家製麦茶づくりを実践していく。	穀類「六条大麦」の収穫量3Kgを目指すとともに、麦ストローの作製と自家製麦茶づくりに挑戦する。
	麦ストローを教材としたワークショップを展開することで、海洋プラスチック問題について取り組む。	麦ストローを題材とした教材づくりと、それを取り入れたワークショップを3回以上実践する。
	いきもの教材を活用したワークショップを展開することで、陸のエコシステムの保全について取り組む。	陸のエコシステムを題材とした教材づくりと、それを取り入れたワークショップを3回以上実践する。
	行政、企業、教育関連施設（大学・学校放課後児童クラブ・科学館・動物園）と連携し地域社会発展へ寄与する。	連携パートナーとのパートナーシップの一層強化と同時に、新たなパートナーの開拓を目指す。

（記載上の注意）

- 1 取組は3～5つの目標に関する取組を記載してください。
- 2 取組のない目標については、行ごと削除してください。
- 3 目標はなるべく定量的に記載してください。
- 4 ゴールとの関連が不明なものは「その他」に記載してください。
- 5 取組目標については、毎年1月に達成状況を報告していただきます。

事業所・団体等又は関連事業者等の名称	農育プロダクション「いきものがかり」by静岡県立静岡農業高等学校 (本社が届け出る場合はその事業所の数)	
業種	1 1. 教育、学習支援業	
代表者 職・氏名	職名	校長
	氏名	松下 勝也
所在地	〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄三丁目1-1	
URL	www.edu.pref.shizuoka.jp/shizuoka-ah/home.nsf	
従業員（構成員）数	男性 <u> 2 </u> 人 女性 <u> 22 </u> 人 計 <u> 24 </u> 人	